



就労移行支援事業



就労移行支援からこの夏に3名の訓練生さんの就職が決まり、一緒に訓練してきた仲間とお祝い会をしました。コロナの事もあり対策をしつつ、短時間ではありましたが最近卒業されたメンバーさんも加わり、楽しい時間を過ごすことができました。普段見られない“素”の顔も見ることができ、スタッフにとっても充実した日となりました。



《光ミュージアムにて記念写真》



もっと時間が欲しいと思うくらい色々みるところがありました。食堂でスパゲティを食べて満足でした。 K・N

展示品を見てきれいな絵だなーと思いました。恐竜はとてまかっこよかったです。レストランではスパゲティを食べました。とても美味しかったです。みんなと話が出来て楽しかったです。 R・S



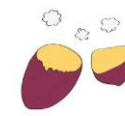
光記念館に行ったのは久しぶりで広々としていてまた行きたいとおもいました。みんなと久しぶりに会えて、そして話が出来てとても満足しています。 H・K

卒業生の方達と話が出来て楽しかったです。 K・R

ウェルの卒業生と光記念館に行きました。久しぶりの再会だったので嬉しかったです。 S・Y

大きな恐竜はとても迫力がありました。レストランではかに玉を食べ、とても美味しかったです。 K・Y

就労継続支援B型事業



自主生産品を販売しました！

『福祉のお店』 in 高山市役所

江名子まち協ウォークラリー

高山市役所の1階ロビーで自主生産品を販売させていただきました。たくさんのお客様にご来店いただきました。新商品の刺子バックやタペストリーも好評でした。

これまでもまち協のイベントには参加させて頂いていましたが、今回初めて開催されたウォークラリーではバザーを出店させていただきました。中でもゲームくじが大盛況でした。



Mさんによる刺子の実演販売

市役所職員の方々や来所された方々が、実演の様子をじっくりと見てくださいました。



くじ引きでは、元気いっぱいな子どもたちが、お目当ての商品をゲットして、大喜びでした！

ご来店いただいた皆様、ありがとうございました！！



あじさい会 ~第1弾~



まだまだコロナ禍の中ではありますが、少人数のグループに分かれてドライブに行きました。第一弾は飛騨の里。昔ながらのおもちゃで遊んだり、大きな鐘をついたり、限られた時間の中でしたが、心も体もリフレッシュすることができました。



和傘を持って写真撮影



竹製の水鉄砲で大はしゃぎ

非常災害対策計画を改訂しました



9月に入り、飛騨県事務所より「障がい者支援施設等における非常災害対策計画の作成及び避難訓練の実施状況の点検の実施等について」という通知が届きました。

ウェルコミュニティ飛騨では、平成30年8月に非常災害対策計画を策定していましたが、平年から大きくかけ離れた天候による災害の多発と今回の通知を踏まえ改訂を行いました。

見直しを行う中で、避難を開始する時期、判断基準が曖昧に規定されていたので修正を行い、避難場所・避難経路・避難方法については利用者の状況変化を踏まえ変更をし、利用者の実情に応じた非常災害対策計画に改訂できたと思います。

参考にした資料の中に、「今や異常気象は異常ではない。定常化している」との言葉がありました。もう昔の常識は通用しなくなっています。防災の3K「気づく、考える、行動する」を今一度心に刻み、利用者の皆さん、ウェルコミュニティ飛騨で働くスタッフが安全に過ごせるよう、防災対策に取り組んでいこうと思います。

寄付のお礼

NPO法人 Vネット様より、「アクリルスタンド 飛沫ガード」をご寄付いただきました。

新型コロナウイルス感染症予防対策に役立てていきたいと思っております。

大変にありがとうございました。



タオルをお譲りください

青空作業所では、タオルを利用して施設外での訓練にて清掃を行う際に使用する雑巾を作成しています。

訓練に協力いただける企業様の増加に伴い、材料であるタオルが不足している状況です。

ご家庭等で使用していないタオルがございましたら、是非お譲りください。

ご連絡いただければ、取りに伺わせていただきますので、ご協力お願いいたします。



よろしく
おねがいます

青空通信

NPO 法人 ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所
高山市山口町 1297-1 0577-35-1559
<https://www.welcom-aozora.com/>
令和2年 10月 12日発行 第46号



ご挨拶



理事長 柏木 真司

日頃よりウェルコミュニティ飛騨 青空作業所の活動に対しご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大については、依然油断できない状況が続いています。万が一、当法人から感染者が出てしまったら、当事者が苦しむばかりではなく、その他の利用者ならびにそのご家族、さらには施設外訓練等でご協力頂いている企業や施設にまで多大なご迷惑をおかけすることとなってしまいます。引き続きご利用者を新型コロナウイルス感染から守るため、対策を講じていきたいと思っております。

さて、来年度実施される報酬改定に向けて、関係する団体から様々な意見等が出されています。私は、就労移行支援事業と就労継続支援事業B型について、これまでとは違った視点を持って改定される必要があると考えています。

全国的に厳しい事業運営を続けている就労移行支援事業については、これまでの就労定着率による基本報酬区分だけでは、安定した事業運営が困難です。確かに就労移行支援事業には一般就労への移行者を増やすといった大きな使命がありますが、それ以外にも雇用啓発(研修会の開催)、人材育成(サビ管講師やファシリテーター)、就労に向けたアセスメント、地域自立支援協議会への参画など幅広い取り組みが期待されています。就労定着率による基本報酬とは別立てでこのような活動に対して加算評価してもらえるような報酬体系を組むべきだと考えます。

就労継続支援事業B型は、依然働く力を有する障がい者を抱え込む課題があります。B型から一般就労への移行者を増やすためには、これまでの就労移行支援体制加算では不十分です。就労移行支援事業と同様に就労定着率の高い事業所の基本報酬を上げる仕組みが必要です。こうすることで経営の安定を図ると共に支援者のモチベーションも向上すると思っております。

この考えは、全国障害者就労支援ローカルネットワークに提言しています。現場の声が国に届き、来年度の報酬改定が障がい者の就労促進と就労支援事業所の事業の安定化に繋がることを願うばかりです。